

社会に役立つ心理臨床家、および、科学的素養を有した心理臨床家を育成することを目標としています。そのため、臨床心理学や関連科学の知識の修得と同時に、専修科における修士論文の作成、さらに、カウンセリングや心理療法（臨床心理学的介入）の基礎、心理検査の実施と解釈（臨床心理査定）の基礎、臨床心理学的地域援助の実際を、役割演技や、付属の臨床心理センターをはじめとする実習施設において修得します。

臨床心理学研究

8単位

臨床心理学の専門家としては、実践力だけではなく、科学的な素養を有していることも重要である。この科では、最終的な成果物である修士論文を作成する過程において、科学的な考え方と方法論を修得し、プレゼンテーション能力に磨きをかけ、科学的で論理的な文章作成能力を身につけることを目標としている。研究対象とする個人や集団、コミュニティの特徴を、さまざまな心理学的な方法で査定し、介入や地域援助を視野に入れつつ、臨床心理学的な概念の諸特徴を明らかにしていく。

担当教員

近江 政雄 教授

精神疾患によって注意・記憶・推論・判断といった認知機能に問題が生じることからも明らかのように、認知心理学は臨床心理学の基盤の一つであり、心理療法に科学的エビデンスを与える。ここでは、社会不安障害や発達障害などを研究対象として、認知情報処理に対する感情情報処理の影響にとくに注し、行動科学的方法と非侵襲脳機能計測による認知脳科学的方法の両面から感情認知メカニズムの解明を指す研究を行う。

塩谷 亨 教授

対人不安を中心とする不安に関連する問題の個別の心理治療や集療法、それらを査定する質問紙法（MMPI等）や投射法（ロールシャッハ法等）に関する研究、さらに、働く人のストレスを緩和し、よりよい職場環境やシステムづくりに対する提言の基盤となる研究を指導したいと考えている。また、感情を認知心理学的に解明する研究にも興味がある。

大矢 寿美子 教授

クライアントのことをどう理解して心理療法を進めていくかを考えるのに、心理査定は欠かすことができない。各種の心理検査の使用も含めた心理査定について、その治療的効果の解明など、実践的なテーマを設定し、またはこれにつながるような基礎的研究を進めていく。またロールシャッハ・テストを中心とする投射法の心理検査について、解釈仮説や検査の実施自体がもつ治療的側面の実証的研究も視野に入れている。

増 梨花 教授

「臨床心理学」と「発達心理学」と「教育心理学」の3地点を結ぶような、或いはそれぞれが重なり合うような領域の研究を模索したいと考えている。特に臨床現場において、心の苦しみや痛みを抱え、ケアを必要とする子どもや家庭への臨床心理学的介入について体験的学習方法（例えば絵本を媒介とした臨床教育心理学的介入法等）も取り入れながら、「役に立つ臨床家」として臨床現場で実践することができる研究を指導したいと思う。

石川 健介 准教授

自閉症や学習障害など、発達上の問題をもつ子どもたちを対象に、効果的な支援方法に関する研究を指導したいと考えている。また効果的な教材の工夫や指導方法が、どのような科学的エビデンスを持つのか、明らかにしていきたい。さらにそれに関連して、発達の問題をもつ児童・生徒の親（保護者）に対する支援、学校の先生に対する支援などにも関心がある。

臨床心理学の心構え

2単位

本大学院で学ぶにあたってのオリエンテーション的性格の科目である。心理臨床家を指す学生として、修学上必要となる最低限の知識と態度を修得する。具体的には、科学と実践を兼ねた臨床心理学の特質を知るとともに、実践の内容や分野、研究の進め方、研究と実践の両面にわたる人権問題と倫理(守秘義務を含む)などを取り上げ、実習や見学を通して、心理臨床家がとるべき基本的態度を考察する。

心理学研究法特論Ⅰ

2単位

この講義では、現代の心理学研究で用いられる方法について学ぶ。この中で、研究にはいくつかの種類と目的、それに合わせた方法、分析手段・結果のまとめ方があることを理解することが必要である。それらをもとに受講生は、研究を評価する際に必要な視点を学ぶことになる。また受講生は、研究の準備、データ収集・分析、研究成果の公表の仕方についても学ぶ。そうして得た知識を、自らの研究活動に置き換えて研究活動にいかすことが望ましい。

臨床心理学特論Ⅰ

2単位

臨床心理学全般の基礎知識を修得してもらうことが目標である。臨床心理学の歴史、方法論、主なパーソナリティの理論、臨床心理査定や心理治療に関する基礎的な知識を修得していただくことがこの講義の大きな目標である。臨床心理学においてよく使用される用語や概念の正しい理解と、主なパーソナリティ理論の正しい理解が求められる。

臨床心理面接特論Ⅰ

2単位

臨床心理士の職種は広いが、心理面接はすべての職種で必要とされると言っても過言ではない。この講義では、主に査定面接に関するさまざまな局面を取り上げ、それらの面接状況により、臨床心理士として必要とされる知識(倫理的な事柄も含む)を学習することを目標とする。

臨床心理基礎実習

2単位

クライアントを理解し、共感するための基本的な態度と技能を、実習を通して受講生が修得することを目標としている。心理臨床家として相手を観察し、理解し、共感するための基本的なコミュニケーション技能を修得するには、実習形式の体験学習をできる限り多く行い、逐語録の作成や、事例検討会への資料作成といった事柄が必要である。このような体験を通じて臨床心理士としての基本姿勢や、態度を修得してもらうことを指している。

臨床心理査定演習Ⅰ

2単位

質問紙形式の心理検査について、尺度開発のプロセス、信頼性・妥当性の検討の方法を学ぶ。また代表的な質問紙法であるMMPI(Minnesota Multiphasic Personality Inventory)をとりあげ、実施方法、結果の整理(採点方法、尺度得点の算出、プロフィールの描画など)、解釈仮説の導出・取捨選択といったレポート作成に至るまでのプロセスを学び、その成果をレポートとして提出する。

認知心理学特論

2単位

臨床心理学の科学的基礎としての認知心理学について、臨床への適用を視野にいれながら理解する。そのため、記憶・学習・言語・思考などの認知システムにくわえて、感情や気分などの情動システム、情動の認知機能への影響、ストレスや不安障害の認知心理学について学習する。さらに、脳の活動を計測する手段として近年急激に一般化してきた非侵襲脳機能計測について、その原理と計測データの扱い方を学ぶ。

精神医学特論

2単位

臨床心理士にとって知っておく必要があると思われる精神障害の原因、症状、経過、治療法を学ぶ。また、精神障害の治療・ケアは医療機関をはじめさまざまな機関が関わり、さまざまな職種が関わる。精神医療の社会的側面も学ぶ。

心理学研究法特論 II

2単位

事例研究法について、心理学的研究法における位置づけや特徴など基本的な知識を身につけるとともに、臨床心理学における事例研究の実際を文献資料などを検討しながら理解していく。自身の臨床経験を「事例研究」としてまとめられる基礎と姿勢を身につけることが■標となる。またその前段階として、事例報告の仕方についても指導する。

臨床心理学特論 II

2単位

臨床心理学特論IIに続いて、臨床心理学全般の基礎知識を修得してもらうことが■標である。臨床心理学特論Iでは、臨床心理査定(心理学的能力と行動、パーソナリティ)、および、臨床心理学的な介入(精神分析、人間主義、認知行動療法)を取り上げる。これらに関する基礎的な知識を修得していただくことがこの講義の大きな■標である。臨床心理査定や介入においてよく使用される用語や概念の正しい理解と、主なパーソナリティ理論の正しい理解が求められる。

臨床心理面接特論 II

2単位

臨床心理士の職域は広いが、心理面接はすべての職域で必要とされると言っても過言ではない。この講義では、臨床心理学特論Iで学習した事柄を復習し、修得した知識を確実なものとするとともに、治療面接に関するさまざまな局面を取り上げ、それらの面接状況により、臨床心理士として必要とされる知識を学習することを■標とする。

臨床心理査定演習 II

2単位

心理検査の中の投射法について学習する。これらの基本的な知識やテストバッテリーの考え方を身につけ、代表的な投射法の一つであるロールシャッハテストについては実施から結果の整理、解釈、報告書の作成までができるようになることを■指す。

学習心理学特論

2単位

この講義では、20世紀初頭の学習心理学から最新の学習心理学について学ぶ。受講生は、学習心理学の重要な事項について理解を深め、学習心理学の視点から臨床場面での活動をとらえるときに、それらの知見がどのように援用できるかを考えることが必要である。具体的な例を通じて、基礎的な知見が応用的な技法に反映されることを理解する。

心身医学特論

2単位

心と体の関係について東洋医学の経験、西洋医学の研究結果を学ぶ。心理社会的ストレスが引き起こす、あるいは影響する病気・病態について知り、治療的関わりについても学ぶ。

心理療法特論 I

2単位

現行の心理療法ないしカウンセリングに用いられる方法のうち、代表的なものの一つであるロジャーズの創始した来談者中心療法について、その形成過程・特徴・影響について学習する。また、一般的な子どもの臨床心理療法である遊戯療法においてもロジャーズの理論が実践されていることを、体験学習など演習的方法を取り入れながら学び、子どもの心理療法にも生かせるようにする。

社会病理学特論

2単位

現代社会で広くみられるようになったさまざまな嗜癖行動についてその疫学、症状や特徴、周■の人々への影響、■復、治療へのアプローチや関わりを学ぶ。■復にとって重要な自助活動についても学ぶ。

臨床心理実習

2単位

学外実習先である2つの医療機関と大学内の臨床心理センターでの実習を行う。医療機関では、実際に精神科疾患の患者さんに関わり、精神科医療に携わる他職種のスタッフと接することによって、精神科治療とリハビリテーションの実際について学ぶ。また臨床心理センターではカウンセリングへの同席や心理検査の施行などに実習として参加していく。

臨床心理査定演習 III

2単位

臨床場面で多く使用される知能検査と、発達検査について、その概要や歴史を理解するとともに、実施方法と結果の整理ができること、さらに結果から知的機能の特徴を読み取ることができるようになることが■標である。また検査結果を■的に応じた報告書にまとめる訓練も含まれる。

心理療法特論 II

2単位

精神分析理論の基礎概念と、■典的精神分析から派生した対象関係論について学ぶ。また精神分析的な心理療法について、治療の基本的枠組み、介入方法、アセスメントの方法、心理療法のプロセスなどをテーマに解説し、精神分析的な事例の理解の実際を学ぶ。

母子関係特論

2単位

「心」は、在るかいないのかさえ分からない不確かな存在であり、その不確かな存在である「心」が人間を人間たらしめる重要な要素、尊厳の根拠であることを知る。母子関係の仕組みと様相、母子関係の発達について学びながら、母乳が、生物としての人間の体の基礎を育てているように、母親の愛情や母親との関係が人間の尊厳の根拠である「心」の、つまり愛の感知力の基礎を育てていることを知る。また、子どもを生き育てるという壮大な人生のサイクルを担っている母親と子どもとの関係性の中で育まれていく愛情について考える機会を持つ。

臨床心理地域援助特論

2単位

コミュニティ心理学の観点から、地域、組織などさまざまな「コミュニティ」を対象とした、臨床心理学的な査定および介入に関する理論・技法を理解する。また、さまざまな地域コミュニティが抱える精神健康面での問題や、各コミュニティにおける心理専門家の役割および職業倫理などを考究するための基礎能力を修得する。

学校臨床心理学特論

2単位

この講義では、近年の学校現場で生じている問題を取り上げる。受講生は、小・中・高校で生じている「いじめ・不登校・非行」などに関する説明を理解し、これらの問題に対する心理学的な援助方法を考えることが求められる。また発達障害に対する理解を深め、適切な特別支援教育の方法について学ぶ。

高齢者心理学特論

2単位

臨床現場で出会う高齢者の心理的諸課題(高齢者の身体的、精神的、心理学的、社会的側面など)を取り上げる。受講者が高齢期の心理学的特徴、高齢者との対人関係を深める方法、介護者である家族との関わり方など、臨床心理士になるにあたり学んでおくべきテーマについて、集■討議・発表、体験学習など演習的方法を取り入れながら理解を深めていく。

心理療法特論 III

2単位

社会不安障害、強迫性障害などの不安関連障害の臨床心理学的査定や介入方法を知り、実際の臨床場面において、クライアントの問題を特定でき、介入方法を実践できる準備を行う。主として認知行動療法的な枠組みから事例への理解を深めていただく。